



# 全大教

全国大学高専教職員組合 発行所  
Faculty and Staff Union of Japanese Universities  
毎月1回10日発行 (1部30円) 組合員の購読料は組合費に含まれています

第306号 2014年12月10日  
全大教のホームページ <http://www.zendai-kyo.or.jp>  
◆全大教の紹介  
◆大学・高専教育に関する情報など  
◇情報の提供やお問い合わせは全大教情報宣伝部まで  
Eメール (josen@zendai-kyo.or.jp)  
〒110-0015 東京都台東区東上野六丁目1番7号 MSKビル7階  
TEL 03(3844) 1671/FAX 03(3844) 1672

## 大学・高専職場での正常な団体交渉確立を求めて

### ～団交拒否・国の不当介入を免罪する都労委命令(11月21日)に抗議声明～

11月21日、東京都労働委員会(房村精一会長)は、2012年7月12日に全大教が提起した、国立高専機構が臨時賃下げに関する全大教高専協議会との団体交渉を一方的に打ち切った団交拒否、また文科省の国立大学・高専に賃下げを執拗に要請したことによる支配介入の不当労働行為に対する救済申立てについて、これを棄却する不当な命令を下しました。この命令は、労働者の権利擁護のために使用者の不当労働行為を審査し必要な救済を与える労働委員会としての使命を省みず、一方的な事実認定と判断を通じて使用者側を救済しようとする不当なもので、容認できません。全大教が発表した抗議声明の概要は次のとおりです。

#### 全大教の抗議声明の骨子

- 1 都労委は、臨時賃下げに関連した高専機構の行為(高専各校からの予算引上げなど)を組合の要求に基づいたものだったかのように不当に描くことを通じて、高専機構を免罪しています。
- 2 都労委は、団体交渉での賃下げの必要性に関する高専機構の説明が抽象的だと認めつつ、組合側の交渉姿勢に責任を転嫁して、高専機構の不誠実団交を不問にしています。
- 3 都労委は、一か月間の期間でわずか三回の団体交渉を「行き詰まりの状態」と一方的に決めつけ、また、組合の交渉継続の申し入れに高専機構側が「7月実施を受け入れる前提でなければ交渉に応じない」と不当な条件をつけて交渉を拒否した事実を無視して、団体交渉打ち切りやむなしとする判断を正当化しています。
- 4 文科省の介入行為についても、国立高専・大学の賃金決定に対する影響力は認めながら、曖昧な根拠で使用者の立場に立つものではないと判断しています。

全大教は、都労委のにおける正常な団体交渉と労使自治の原則とともに、今後とも、則ち確立を求めて運動し、国立高専・国立大学 動していきます。

## 第25回医科系大学教職員懇談会を開催 11月15日～16日



全国から62人の仲間が徳島に集結!

「安全・安心な医療、安心して働き続けられる大学病院」をのスローガンの下に11月15日、16日の2日間、徳島大学蔵本キャンパスにおいて全大教第25回医科系大学教職員懇談会(医大懇)が開催されました。今回は、医大懇初回の四国地方での開催となり、全国から18大学62人の国立大学病院を支える職員が集まり活発な意見交換を行いました。

分科会では、「安全・安心の医療をめざして」「教職員の労働条件改善」「魅力ある組合と組織づくり」「保育所問題について」のテーマについて議論が行なわれました。各々の大学にある様々な問題を共有し、議論することで今後の組合活動に役立てる糸口を見つけたことができました。

記念講演では、金沢大学地域連携センター長の横山壽一氏を迎え、「政府がねらう医療提供体制」と題して現政権が進めている医療費抑制のための体制整備の全体像と、その一環として「医療から介護へ」の流れが具体的に示され、政府の責任を放棄した医療提供体制の再編が行われようとしていることが具体的に述べられました。大学病院とはいえない医療機関であり医療制度を踏まえた上で大学病院運営を再考する機会が得られました。

懇親会では、各大学の近況報告を踏まえ情報交換を行い、中でも幹事大学の徳島大学から、「本場の阿波踊り」でおもてなしを頂き、その後、参加者全員で阿波踊りを体験することができました。

「安全・安心な医療、安心して働き続けられる大学病院」のために集まった仲間が意見交換のみならず阿波踊りを通して一つになった医大懇となりました。

(病院協議会幹事 長谷川信)

訴訟・労委闘争と並行した徹底交渉で成果を獲得(高専協議会)

全大教高専協議会 料提示の要求、不利益では、労働委員会での変更に対する代償措置、未払い賃金の支置の要求などを通じ払いを求める裁判闘争、現給保障措置の1年延長、教員の55歳昇格を並行して、高専機構との団体交渉を行給停止を阻止し57歳差差正を掲げた交渉を徹底した説明・資とする、職員の昇格基準を継続しています。

準の改善、非常勤職員の特別休暇の新設・有給化など一定の成果を勝ち取っています。人助「給与制度の総合見直し」に追いついた賃金改定提案に対し、不利益阻止や地域格差差正を掲げた交渉を徹底した説明・資とする、職員の昇格基準を継続しています。

11月22日、23日の2日間、信州大学工学部キャンパスで全国青年交流集会と第26回総会を開催。運営委員会を含め16単組29人が参加しました。

22日の交流集会では参加者が6つの班に分かれてグループ交流を行いました。グループ交流は、各班でどこへ行き、何をするか計画し実行する屋外での班別行動です。行動中に、共通テーマ「組合のイベントについて」と、くじ引きで決まった選択テーマ「組合」でできることは何でしょう」等の組合に関するこの2つを話し合い、行動の概要を話し合った内容を23日の報告会



信州大学・工学部キャンパス(11月22日～23日)

## 全国青年交流集会 in 長野 ～KIZUNA 2014～ 11月22日～23日

★『学び、交流、成長』情報交換・議論を通して大いに交流しました★

23日の総会は青年部加盟単組13のうち8単組が参加して成立。議案は全て出席議員8人の賛成をもって承認されました。参加者からは、青年部加盟の意味や総会成立に向けた具体的な対策の質疑、今後の集会開催地の提案等がありました。また、総会の中で、各単組の組合員拡大をはじめとしたイベントの情報交換を行いました。

若手教職員が組合員生活の第一歩を踏み出す青年部。学び、交流、成長する場として機能できるよう、今後も魅力ある活動を継続・発展させていきたいと思います。

(青年部長 長野祐子)

で班毎に発表しました。地域や職種も異なる初対面同士ですが、組合員という共通点で打ち解け、仕事や組合活動の情報交換・議論を通して大いに交流しました。報告会では「話し合いを通して組合のことがみえてきた」「他の単組のことを知ることができ意義深かった」等の感想が挙がりました。

## 今月の紙面

- ◆特集 未払い賃金請求訴訟 取り組みの現状と到達点  
高工不研 賃下げ回避努力ゼロ! 機構の理不尽さが明白に  
山形大「大学法人の余剰の資金繰り、これで賃金が支払えないはずない」  
新潟大 大学教職員の法的地位、法人財政の面から議論を継続  
富山大「経営判断の一言による賃金削減の正当化は許されない」  
京都大 国の誤った政策への説得的批判  
この大学の社会的責任と裁判で示す  
高知大 裁判勝利に向けて善悪活動も取組んでいます
- ◆単組からのレポート  
・秋田大「働く上で心の支えとなるような組合に」  
・大分大「不当労働行為の訴訟、勝利が終結」- ◆わたしもひとこと